

別紙

送配電等業務指針第33条第1項第2号ア、イの要件適否の状況に係る詳細について(2022年6月末現在)

ア. 地域間連系線の利用実績

目的: 連系線の高稼働での利用頻度を見る

指標: 空容量/運用容量が5%以下の時間数比率(2021/7~2022/6)

連系線	順方向	逆方向	
北海道本州間連系設備	13%	9%	
東北東京間連系線	14%	0%	
東京中部間連系設備	22%	21%	○
中部関西間連系線	1%	20%	○
北陸関西間連系線	17%	17%	
関西中国間連系線	0%	3%	
中国四国間連系線	0%	1%	
中国九州間連系線	0%	58%	○
中部北陸間連系設備	6%	19%	※
関西四国間連系設備	1%	50%	※

判定: ○

(要件)

- ・運用容量に対する空容量が5%以下の時間数比率が、過去1年間で20%以上となった場合

※他の連系線への迂回が可能である潮流については、他の連系線に迂回したものとして取り扱い総合的に判断する

- ・北陸関西間連系線迂回(順方向0%、逆方向0%)
- ・中国四国間連系線迂回(順方向0%、逆方向2%)

イ. 市場取引状況

目的: 連系線の容量超過により市場取引へ影響を与えた頻度を見る

指標: 市場分断処理の時間数比率(2021/7~2022/6)

連系線	順方向	逆方向	判定
北海道本州間連系設備	6%	6%	
東北東京間連系線	9%	0%	
東京中部間連系設備	19%	18%	
中部関西間連系線	1%	9%	
北陸関西間連系線	1%	1%	
関西中国間連系線	0%	1%	
中国四国間連系線	0%	0%	
中国九州間連系線	0%	45%	○
中部北陸間連系設備	0%	8%	
関西四国間連系設備	0%	1%	

判定: ○

(要件)

- ・過去1年間に市場分断処理を行った商品の数が、過去1年間の総商品数の20%以上